

シネマズライフ

2011年10月21日発行 第2号

<http://p.booklog.jp/book/36003>

貴樹諒音(たかぎりおん)

映画の風景 日本の風景 ★ 通天閣 ★

今でも昔のよき大阪の雰囲気をもつ新世界に立つ通天閣は、大阪に観光客を呼ぶなら必ず行く人も多い場所。実は、この通天閣は二代目である。1956年、地元有志が寄付金を集めて建てた。商店街を回って乗付したと云う人も、初めは乗付しなかったと云われている。通天閣は、大阪のシンボルだ。通天閣が無くなり、活気のなくなった新世界に通天閣復活の音聞する新世界の人々、東北大震災・津波・豪雨などの未曾有の災害に遭って苦境に立つ日本だが、今はシンボルはない。日本の通天閣は、作れないものだろうかと思うのだが、どうだろうか？



新世界から見る通天閣

昔、『ピリケン』という映画があった。…こんな映画だ。今から少し昔の新世界。なんとオリピックの後補地になり、その頃人気がなかつた通天閣も撤去する話が浮上した。驚いたのは新世界の人々。なんとか阻止したいが、妙案がない。ある日の事、ひよんな事から行方不明になった通天閣の守り神・ピリケンを発見！そこで、ピリケンを客寄せにしようと思ひ、展望台に鎮座させます。さつそく、鎮座したピリケンに新世界の人々は、毎日のように願いを叶えようとするピリケンです。

『ピリケン』1996年 日本映画
監督・阪本順治 主演・杉本哲太 山口智子 岸部一徳

復活し、人々の幸せに奮闘するピリケンさんを杉本哲太が演じます。度肝を抜くピリケンさんの登場を見よ！

CS・BS放送のオススメ映画を紹介します！



『ラストエンペラー/オリジナル全長版』

ザ・シネマ
1987年 イタリア/イギリス/中国
監督:ベルナルド・ベルトルッチ
出演:ジョン・ローン ジョアン・チェン
ピーター・オトゥール 坂本龍一(音楽)
10月23日(日) 12:00 10月27日(木) 09:30
10月27日(木) 21:00

1950年。第二次世界大戦終結後の中国。ソ連から送還された「戦犯」達の中から、一人の男が列から離れトイレで自殺を図った。男の名前は愛新覚羅溥儀。満洲国皇帝だった男である。1908年、愛新覚羅溥儀は第12代清朝皇帝に即位するが、1912年退位。再び、1934年に満洲国皇帝に即位するが満洲国の崩壊に伴い退位。日本へ亡命しようとしたが失敗し、ソ連に逗留された。やがて、中国の新しい政権の下で過去の行動を問われる事になった溥儀は、子供の頃の事、悲惨な死を遂げた妻の事などを思いだしていた…。一人の男を通して、歴史に翻弄される人々の悲哀をイタリアのベルナルド・ベルトルッチ監督が壮大に描く。普通の男となった溥儀が紫禁城を訪ねる場面があるが、撮影は紫禁城でも行なわれた。清時代の中国の本物の迫力はさすが、見るだけでも迫力が堪能できます。

『出張』

日本映画専門チャンネル
1989年 日本 監督 脚本:沖島勲
出演:石橋蓮司 松尾嘉代 原田芳雄 志賀圭二郎
10月22日(土) 25:00→[10月23日(日) 01:00]
10月28日(金) 27:40→[10月29日(土) 03:40]
11月11日(金) 28:10→[11月12日(土) 04:10]
11月14日(月) 28:00→[11月15日(火) 04:00]
11月18日(金) 28:30→[11月19日(土) 04:30]

しがない営業マン・熊井功は、東北出張を命令されるが、乗った列車が山中の落石事故で足止めされる。しかたなく、その晩は温泉旅館に宿泊。翌日、歩いていたところ突然の爆発音にびっくり。音の原因は激しい銃撃戦！なんと日本でまだ頑張ってるゲリラと機動隊とが戦っていたのだ。そうこうしているうちに熊井は、ゲリラ達の人質に。彼らは、早速熊井の妻に身代金を要求するが、妻は「払えない」との返答。さて、人質になった熊井は無事《日本》に帰れるだろうか？そして、ゲリラ達の運命は？日本に唯一残ったゲリラ隊のリーダーに、当時日本で一番それらしい男・原田芳雄が演じ、しがない営業マンを今では日本映画では欠かさない名優・石橋蓮司が演じます。妻からもつれなくされ、会社からも冷たくあしらわれ…。最後に彼が叫ぶ言葉は自分への応援歌でもあるのです。最後の叫び聞いてあげてください！

☆【最近のこれはお見事！】は、見事な映画の題名の紹介します反して、【最近のこれはまずいぞ！】は、これは、まずいぞ！と思う映画の題名を紹介いたします。

☆ ネットでも読めるミニコミ誌です！主に映画の紹介とコラムです。よろしかったら、コメントで感想・お叱りお聞かせください。よろしくお願ひします！ 貴樹諒音

【最近のこれはまずいぞー】『カウボーイ&エイリアン』

出演 リチャード・ロクスバーグ
リース・ワイフ・フィールド

「サンクタム」

監督 アリスター・グリアン
製作総指揮 ジェームズ・キャメロン

パプアニューギニアの奥地の今だ謎に包まれているエスペリト・エツサーラの洞窟。洞窟探検のベテラン探検家フランク・マクガイアと仲間、スポンサーのカールの協力の元、調査を続けていた。しかし、神秘的洞窟はなかなか彼らに正体を明かさずうとしなかったが、やうと小さなトンネルを発見。そこは、サンクタム《聖域》へ通じる道だった。ところが、喜びも束の間。洞窟付近で巨大サイクロンが近づき調査の中断を迫られる。が、不運が重なり、フランクとカール達は洞窟から脱出不能に。ベテランのフランクの元、一行は地上に向い出発するが、脱出は困難を究める…。

単なるパニック映画ではなく、死を迎える人をどう見送るかという究極の選択が痛々しく、また、人間の愚かしさが悲しい。人間の死と弱さと強さを厳しくリアルに感じられるのがこの映画の素晴らしい所だ。

制作は『アバター』で、とんでもない映画を作ったジェームズ・キャメロンでこんな深くいい映画を作れるとは感心させられたが、ご本人は3Dだけにこだわっていただけみたいで、お話に関わらなくてよかったです、マジな話。



Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema

コラム

人間には自由 にできないもの



去年、テレビ局のデジタル化にともない、意に反して我が家もデジタル化を決定した。しかし、テレビがまだアナログの為、画像的にはあんまり意味のないデジタル化だ。

やはりメリットといえば驚愕の多チャンネル化。私の契約しているのは、86チャンネル。映画・旅・釣り・音楽・ドキュメンタリー等々。それぞれの趣味の人には、垂涎物の番組もあります。しかし、地上波でも見れるテレビ局のチャンネルは一局三チャンネルもあり、意味がないような気がする。だが、人間がテレビを見れる時間は、デジタル化以前と変わった訳でもなく、

こうまでチャンネルが増えると思えないチャンネルは「もったいない」感はなくもない。デジタル化で多くのテレビのチャンネルを得た人間は、一瞬得した気分になるのだが、やがて見るチャンネルは限られていくのだ。

《病気・お金…そして命》何もかも、人間は自由で生きるようになったように思える。最近では、天気までも人間が変える事ができるようにになったという話を聞く。しかし、時間だけは人間にはどうにもならない。一日は24時間、分にすると44分。これは、未来永劫変わる事はないのだ。

今の人間は時間を埋める事にやっきになっているような気がする。時間が空くともったいないと思うのだろうか？

便利なようになった生活。しかし、時間まで埋めるようになってくると、恐ろしい気がする。

※編集後記※

☆ コラムを書いているうちに改めて思ったんだけど、テレビのプロバイダーに入会すると関係ないチャンネルへ視聴する事になり、そのチャンネルは収入がまったく見る人がいなくても、チャンネルへお金を払っている事になる訳だね。釣り、スポーツ、囲碁・将棋”なんか、見ないし”A。計算して見ると、一局60円から100円ぐらいにして局ごとの契約にしてくれたら少しは家計は助かるんですが…。



☆ 今が一番、着る服に困る季節。歩いたら暑くなり、建物に入ったら寒くなる。皆さまも、体調にご注意くださいませ。

【最近のこれはお見事！】『天使突破六丁目』

実際にある京都の通りの名の一つで「てんしつきぬけ」と読む。四丁目までしかないらしい。映画は、通りの名にちなんで「てんしつきぬけ」という男の話。「てんしつきぬけ」って…、つきけたら何があるんでしょうね。

